

1. 日時

2. 場所

3. 対象

4. 背景

平成24(2012)年、内閣府が「自殺総合対策大綱」でセクシュアルマイノリティの自殺リスクについて言及し、「無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つ」として「教職員の理解を促進する」と明言した。平成27(2015)年には文部科学省が「性同一性障害等に係るきめ細やかな対応の実施等について」と題する通知を発行し、学校での具体的な取り組みが要請された。法務省の「主な人権課題」には、「性的指向」「性同一性障害」が明記されており、セクシュアルマイノリティは国の人権課題の一つと認識されている。

セクシュアルマイノリティが自分のセクシュアリティ(性のあり方)を自覚するのは、小学生から高校生までの学齢期が多いとされている。

まずトランスジェンダーの人が「性別違和感を自覚し始めた時期」は小学校入学前までが56.6%、小学校低学年が13.5%、小学校高学年が9.9%と、実に80%が就学前あるいは小学生のうちから対応を必要としている(※1)。また、自殺念慮を抱いたことがあるトランスジェンダーの人は58.6%いる(※1)。

さらに、小学生から高校生の間に「LGBTをネタとした冗談やからかいを見聞きした経験」のあるセクシュアルマイノリティは84%、自身が「いじめや暴力を受けた経験」があるセクシュアルマイノリティは68%にのぼる(※2)。一方で、小学生から高校生の間に「自分自身がLGBTであることを打ち明けた相手」は「同級生」が最も多い(※3)。これらのことから、前述の「教職員の理解」のみならず、身近な同級生らの理解も重要であるといえる。

このように、セクシュアルマイノリティのメンタルヘルスの低下や周囲の無理解を考慮すると、早期に多様な性に関する正しい知識や肯定的なメッセージを教育現場で発信していく必要があるといえる。そのためにはまず教職員の正しい理解と、適切な支援のできる体制づくりが肝要である。

(※1)中塚幹也。封じ込められた子ども、その心を聴く:性同一性障害の生徒に向き合う。2017, p.50. ふくろう出版。

(※2)いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン。LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)結果報告書。平成25年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業。2013, pp.8-9。

(※3)いのちリスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン。LGBTの学校生活に関する実態調査(2013)結果報告書。平成25年度東京都地域自殺対策緊急強化補助事業。2013, pp.4-5。

5. 目的

- (1) セクシュアルマイノリティの子どもたちにとっても過ごしやすい学校づくりのために、多様な性について理解する。
- (2) セクシュアルマイノリティの子どもたちにとっても過ごしやすい学校づくりを通して、すべての子どもが過ごしやすい学校づくりをめざす。

6. 内容

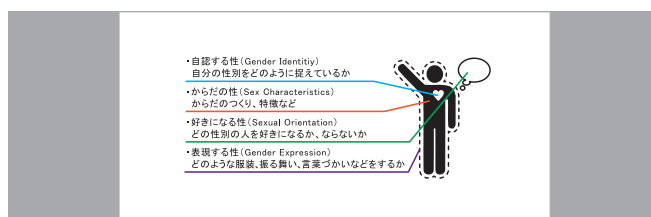
時間	内容	留意点
5分(5分)	挨拶	
45分(50分)	映像を再生する 途中、映像の指示に従い、映像を一時停止して話し合う時間を設ける。 話し合い終わったらが終わったら映像を再生する。	3～4人の班をつくる ワークシートに記入する(発表してもよい)
5分(55分)	アンケートに回答する	
5分(60分)	挨拶	

7. 資料

- プリント「研修計画書」(認定特定非営利活動法人ReBit制作)
- 映像「多様な性ってなんだろう?～すべての子どもがすごしやすい学校とは?～」(認定特定非営利活動法人ReBit制作)

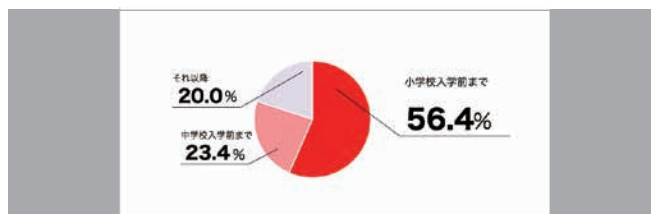
① 多様な性とは?(約6分)

セクシュアリティ(性のあり方)の概念と、様々なセクシュアリティについて説明する。



② LGBTの子どもたちの現状(約2分)

セクシュアリティを自覚する時期、いじめ・自殺等、人間関係・メンタルヘルスに課題があることを、データをもとに解説する。



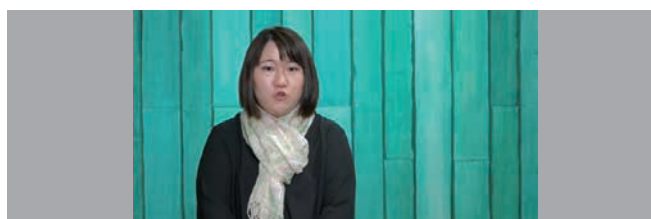
③ LGBTの若者たちの話(約10分)

バイセクシュアル女性とトランスジェンダー男性のライフストーリーを紹介する。



④ LGBTの子どもたちが学校生活で

直面しやすい困難(約2分)
日常の中にある、注意すべき言動や環境を、具体例をまじえながら解説する。



- ⑤ アライの先生であるためにできること
(導入約2分・ワーク約5分・解説約2分)
アライ(LGBTの理解者・支援者)の先生であるために先生個人としてできること・学校と全体としてできることについて、話し合う。



- ⑥ カミングアウトへの対応
(導入約2分・ワーク約5分・解説約2分)
カミングアウトがあった場合、どのような声かけができるか、どのような点に気をつけるべきか、などを話し合う。



- ⑦ アライの先生たちの話(約2分)
実際に授業などの取り組みをした先生たちが経験した、取り組みの効果などを紹介する。



- ⑧ まとめ(約5分)
多様な性があることを前提とした学校づくり、また、多様性を尊重した学校づくりについて、今日からできることや当事者たちの声を紹介する。



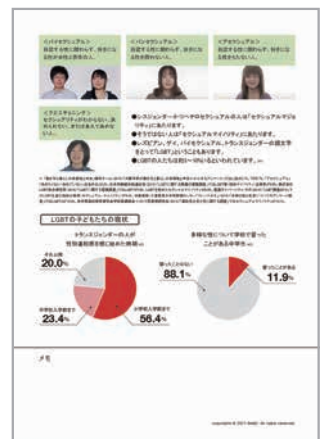
●プリント「多様な性ってなんだろう？～すべての子どもがすごしやすい学校とは？～」
(認定特定非営利活動法人ReBit制作)

●(2)配布資料・ワークシート
(認定特定非営利活動法人ReBit制作)

●映像
(認定特定非営利活動法人ReBit制作)

8. 機材

- ・スクリーン
- ・プロジェクター
- ・HDMIケーブル



●認定特定非営利活動法人ReBit (リビット)とは

LGBTを含めたすべての子どもがありのまま大人になれる社会の実現をめざす、認定NPO法人(東京都新宿区、2009年設立)。学校/行政/企業等で1,100回・12万人以上に、多様な性についての授業・研修を提供。制作する教材「Ally Teacher's Tool Kit」は、グッドデザイン賞を受賞。著書に『改訂新版LGBTってなんだろう？—自認する性・からだの性・好きになる性・表現する性』(合同出版)、『「ふつう」ってなんだ？—LGBTについて知る本』(学研プラス)、『みんなちがってみんなステキーLGBTの子どもたちに届けたい未来』(新日本出版社)など。